

研究構想シート		学校名	松江市立八雲中学校
		氏名	久保田 航和
A 研究主題 自ら課題を見つけ、協働しながら粘り強く取り組む生徒の育成			
B 研究の目的 絶えず変化する社会の中で、他者と積極的にかかわりながら、社会をよりよくするための努力ができる生徒を育成するため。			
C 子どもの実態 ① 基礎的な学力の定着が十分でない生徒層が厚い ② 家庭学習が習慣化しておらず、家庭学習を軽視する傾向がある。 ③ 難しい問題にチャレンジしようとする意欲が低い。 ④ 多くの人の前で、自分の考えを述べたり意見を伝えたりする力が弱い。 ⑤ 全体で指示された内容を理解しにくい生徒が多い。 ⑥ 話し合い活動、グループ活動に意欲的に取り組める生徒が多い。	E 手立て・内容（研究仮説） ○ ICTの活用や思考ツールの活用によって、それぞれの教員が研究授業で考えたことや学んだことを自分の授業改善に生かせるようにする。 ○ 校内授業研究を自分事としてとらえるために、意見を出した後は授業のポイントの概念化を行い、そこから自分の授業に落とし込んで考える。 ○ 上記の方法で授業改善を行うことによって、教員の指導力を向上させ、生徒の基礎的な学力を高める。 ○ 上記の方法でICTを活用できる教員の数を増やし、生徒の主体的な家庭学習の実施につなげる。		D めざす子どもの姿 ①② タブレットドリルなどの活用により、家庭学習が習慣化され、基礎学力が定着している。 ③ 難しい問題や答えのない問いに対して、本やインターネットなど、多様な情報媒体を活用して自分なりに解決しようとする姿勢がある。 ④⑥ ICT機器を効果的に活用し、自分の考えを共有したり様々な考えに触れたりできる。 ⑤ 指示の内容や課題に対して、自分なりに解決までの道筋を立てることができる。
	F 検証方法 ○ 年に3度程度、校内研修を行い、その都度教員一人一人のICT活用能力についての自己評価を行う。 ○ 学校評価の項目などを参照し、生徒の家庭学習時間の変容を読み取る。 ○ 学校評価の項目などを参照し、授業や家庭学習におけるICT活用の実態と変化を把握する。		
	G 研究計画 ○ 夏休み：ICT活用に関する校内研修、授業改善のための校内研修 ○ 2学期：初任研校内研究授業、フォローアップ研研究授業 ○ 3学期：学校評価アンケートによるフィードバック ○ 年度末：個人フィードバック		